

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	新しい研究ネットワークによる電子相関係の研究 物理学と化学の真の融合を目指して	研究代表者名	茅 幸二
-------	---	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア (×) 予定以上に達成した
- イ () 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
5 研究機関のネットワーク構築と活用、物質科学における物理と化学の融合、両者の目的に対して顕著な成果を得ている。こうしたコラボラトリー概念の具現化は大きなステップである。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア (×) 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
上記の成果により、もともと世界的にも主導的なこの分野のわが国のリーダーシップを磐石なものとした。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア (×) 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
研究所間にまたがる研究においても、いくつか非常に優れた成果を得ている。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア (×) 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
明確かつ意義の高い物質科学の基礎課題について、トップクラスの研究所のコラボラトリー研究が有効であることを示した意義は大きい。発表においてもコラボラトリーの成果であることを明確にする工夫があるとなおよかったであろう。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
×	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

本研究の目的である1) 研究ネットワークの構築、2) 物質研究での物理と化学の融合について、前者はコラボラトリーというコンセプトが有効であることを示し得たこと、また後者は適切なテーマ選択と有力な研究機関の共同で、相互理解を超えて高いピークの成果を得たことの意義は大きく、期待以上であったといってよい。